

自分も社会も豊かに プロを目指そう！



商学部長
木立 真直
Mawao KIDACHI

新生の皆さん、入学おめでとうございます。桜咲く多摩キャンパスに皆さんをお迎えできることを心より嬉しく思います。

皆さんは今、4年間という長丁場のマラソンのスタートラインに立っています。当然、ゴールを目指すことが課題となります。しかし、ゴールを明確に意識している人はどれだけいるでしょうか。私は学生に節目節目に「何になりたいのか」と問いかけています。

けれども、実のところ「何に」にはさほど興味はありません。すでにゴールが一つという時代ではないからです。本当に問いたいのは別のところにあります。

近年、日本では食品、耐震、会計、さらには結婚など、様々な偽装事件が多発しています。私はこれを日本の「ニセモノ」社会化と呼んでいます。安心して暮らせる日本社会の豊かさの基盤が足元から揺らぎつつあるのです。人の観点から言えば、熟練の境地を極めた信頼に足るプロが減る一方、本来の役割とは正反対の負の影響をもたらす偽者が増えつつあります。泥棒をするお巡りさん、子を遺棄する親、悪事を助ける弁護士、経理をごまかす会計士、真実をねじ曲げる研究者、教育をしない教員、そして、学ばない学生。さらには、海外でも Post-Truth という言葉が流行語に選ばれる時代を迎えるに当たっています。

たしかに社会の高度化・複雑化にもその一因はあるのでしょうか。しかしながら、学生諸君に伝えたいのは、夢や目標を実現し自らも豊かな人生を送りたいならば、「何に」だけでは問題意識があまりに浅いですよ、ということなのです。「何に」を超えた「どんな」に関する将来を見通したビジョンをしっかりと持って欲しいのです。

プロとして成長するための出発点は志にあります。真面目に継続的に「学生」することで本物や真実を見通す基礎が身に就くこととなります。折に触れて夢と目標に思いを馳せつつ、4年間の長丁場をプロの大学生としてしっかり完走してください。中央大学の教職員一同、皆さん一人ひとりが本学での4年間の学びを通して大きく成長されるよう心から期待しています。



工学部部長
石井 靖
Yasushi ISHII

新生の皆さん、入学おめでとうございます。今年も後樂園の地に約千名の新生を迎えることとなります。皆さんの入学を、心より歓迎致します。皆さんは、最高学府たる大学に進むにあたり、様々な選抜をパスして自分はこのにあるというある種の高揚感をもって、この春を迎えていることと思います。その高揚感を持ち続けて下さい。

最近では日本の方がノーベル賞を受賞される機会も多くなってきましたが、日本人で初めてノーベル賞を受賞されたのは、1949年に物理学賞を受賞された湯川秀樹先生です。戦後の荒廃した国土で、「敗戦国である日本の研究が認められた、日本人でもやれば出来るんだ」という感動をもって迎えられたと聞いています。この湯川先生が自伝の中で「未知の世界を探求する人々は地図を持たない旅人である」という言葉を残されています。実社会で出会う問題とは、解答(目的地)がわかっているわけでもなければ、そこに至る道筋(地図)が与えられているわけでもありません。科学の世界だけでなく、誰しもが未知の世界を探求することになります。そこで皆さんには理工学部で、すでに知られていることを知識として学ぶのではなく、未知の世界を探求する智慧を身につけて頂きたいと考えています。安易に答を求めるのではなく、そこに至る道筋を自ら探して下さい。それが科学者・技術者の真摯な態度ではないかと思えます。

中央大学の建学の精神「實地應用ノ素ヲ養フ」の意味するところは、大学で「實地應用」を学ぶのではなく、大学ではその「素ヲ養フ」ということだと思えます。皆さんの学生生活が実り多きものとなることを願っています。入学、おめでとう。

地図をもたない旅人